

地域材による循環型社会の構築を目指して 組手什おかげまわし東海

1. 製品の概要

地域材を介し人々が手を組み交わるしくみ…組手什(くでじゅう)は、地域材を原材料に、縦横・奥行きが自在に組み合わせできる木装化モジュール部材として開発されている。その特徴は、

1. どの地域材産地からでも入手容易な一般製材の小断面材：胴縁を原材料としていること
2. 需要地近傍の既設建具・家具等の木工機械で加工できること
3. 原材料・製品ともに長さ2m内外の棒状小断面材で乾燥が容易、可搬性に優れること
4. 単一形状部材だけで立体物を簡単に組み立てでき、高さ・幅・奥行き共にサイズ自由な什器ができること
5. 購入者自らが組手什生産流通の仕組み“おかげまわし”により、木に暮らす空間実現と同時に地域材産地の振興に寄与できること

組手什を介し地域材を暮らしにふんだんに採り込める生産基盤は、全国各地に備わっている。

2. 組手什のこれまで

組手什開発母体となったあいちの木で家をつくる会は、地域産木材の生産流通の仕組みづくりと“あいちの木に暮らす”をテーマに活動してきた。

従来、地域産材をどこまでお金に換えられるかという課題に対し、新築木造住宅の梁桁・柱等の構造部材や内外装建材としての板材に注目し、林地残材や製材端材の活用への関心は薄かった。

そこで同会は、2008年に胴縁サイズに着目し、杉胴縁でできる製品開発に建具木工に携わるメンバー：あいち節木工舎を主体に木装化に着手した。

平成21年度補正予算「住宅分野における国産材需要拡大緊急対策支援事業」の助成を受け、NPO団体との鉄筋コンクリート造同事務所の内壁面に組手什で収納棚を製作し、多くの来訪者に木装化による室内環境改善を体感いただいた。



この木装化事業の実施過程で、事務所を同じくする矢作川水系森林ボランティア協議会が計画している“C材で晩酌を〜木の駅プロジェクト”との連携が提案された。「林産地域でのおかげさまの共有を組手什で街まで繋げたい…」。

“組手什・木の駅連携プロジェクト”第一弾は智頭町百人委員会、NPO 賀露おやじの会と智頭町で取り生まれ、同NPOが技術移転先第1号となり、今後の拡充に向けて「組手什おかげまわし協議会」を設立した。

2010年名古屋生物多様性会議 COP10における市民団体、国土緑化推進機構のブース展示に採用され、出展者らが集まり展示什製作作業を行った。国土緑化推進機構の呼びかけで、これらの組手什部材の再利用が同年12月開催“エコプロダクツフェア2010「森からはじまるエコライフ展」”のブース間仕切り兼用の展示台として実現し、ここでも参加者自らが集まって組み立てられた。



翌年2月、愛知県豊田市旭町における「C材で晩酌を〜木の駅プロジェクト」に呼応し、組手什おかげまわし東海は、これまでの売上金の一部を木の駅創設支援として寄贈した。

3. 震災支援

未曾有の大惨事となった東日本大震災の復興支援として国土緑化推進機構は使途限定「緑の募金」を創設し、組手什による被災地支援が開始された。第一段階は被災者が暮らす避難所・仮設住宅に向けて、間仕切り棚などとして組手什を寄贈する支援事業である。

同年5月のみどりの日にあわせ、当会と賀露おやじの会の2団体から、宮城県登米市、気仙沼市へ組手什を届け、同時に、復興第二段階の課題である現地での組手什生産流通を目指して、登米町森林組合、栗駒木材へ技術移転を行った。

6月にはこれら二者が組手什を生産し、仙台市、南三陸町等の被災地への組手什を寄贈。東海大学チャレンジセンターにより宮城県石巻市に建設された木造仮設公民館に、登米町森林組合による組手什書棚の設置が行われた。

7月、賀露おやじの会が2回目の組手什出荷を行い宮城県内の支援団体により被災地配布が行わ

れた。

当会も7月に、2回目の活動を行い、岩手県大船渡市基石、同市越喜来、東海大学チャレンジセンター建設の同地区仮設公民館および住田町仮設住宅を訪れ、組手什の寄贈を行った。さらに、復興第二段階の課題である現地での組手什生産流通の技術移転のため地元関係者と面談を重ねた。引き続き9月にも岩手県遠野町、住田町中上仮設住宅を訪ね、多くの方に組手什に触れていただき、評価もいただくことができた。

栗駒木材もまた、日本の森バイオマスネットワークと共に、南三陸町復興商店街へ寄贈している。



組手什間仕切り収納
気仙沼市立唐桑小学校避難所



工仮設住宅入居者による組手什製作
仙台市内



組手什仮設店舗商品陳列棚
南三陸町復興商店街



組手什支援物資整理棚
登米RQ市民災害救援センター



組手什仮設診療所薬品棚
南三陸町ベイスサイドアリーナ



組手什仮設住宅集会所書棚
住田町旧下有住小学校

11月開催名古屋国際木工機械展特別展示に「地域材による震災復興支援」をテーマにあいちの木で家をつくる会と共同出展し、被災地支援報告を兼ね、建築構造と木装化：家具・什器等に地域産材をたくさん使う提案も行った。



組手什による震災復興支援
名古屋国際木工機械展特別展示

フェア2011では、賀露おやじの会と日本の森バイオマスネットワークが組手什の共同展示した。

11月にはユニセフの助成で、名取市「どんぐり図書館」が建設された。登米森林組合生産の組手什3400本を図書室の書棚にと、職員、ボランティアが組み立て、翌2012年1月6日に開館した。東濃桧構造体と宮城県産杉を使った建物や組手什書棚で、木の香り溢れた図書館をつくりだしている。



組手什による絵本棚
名取市「どんぐり図書館」

4. 今後の活動

組手什開発者は権利関係の主張をしていない。しかし組手什は樹種、生産地、製造者が異なっても組み合わせができるように、加工モジュールの統一には務めてゆきたい。

地域材の活用、既存設備による生産で地域材産地の就労機会を創出し、建具木工業者との連携で暮らしの木装化を推進する。

売上金の一部を地域自立に使うおかげまわしの仕組みに、多くの方が参画し、組手什が暮らしの木装化製品として当たり前各地で生産され、地域材の利用増加推進を願っている。

12月東京ビッグサイト開催のエコプロダクツ